

第 20 回 尾山自然保護講座—夏季特別講座—

「尾瀬でニホンジカとの共生を考える」参加報告

自然保護委員長 菅井 修

【主催】 日本勤労者山岳連盟・自然保護委員会

【参加者】 菅井修(ちば山の会) 小林康男(松戸山翠会) 高橋和子(松戸山翠会)
山本(全国自然保護担当・かがりび山の会)

【場所】 尾瀬・山ノ鼻小屋

【日程】 2017 年 8 月 19 日(土)～20 日(日)

第一日 8/19

12:15 鳩待峠集合→13:30 山の鼻ビジターセンター

14:00-15:30 講演：「みんなの尾瀬をみんなで守るために」
～尾瀬における鹿対策～ 片品環境省自然保護官事務所
庄司 亜香音 氏

15:45-17:00 意見交換

18:00～20:00 夕食・交流会

第二日 8/20

8:00～10:10 尾瀬ヶ原自然観察：山の鼻→牛首（往復）

研究見本園一周 ニホンジカの痕跡、ヌタ場、木道など。

10:10～11:30 山の鼻→鳩待峠 解散

【報告】

昼前から時々小雨が降る不安定な中、2班に分かれ山の鼻へと出発。途中ガイドから登山道脇の小さな花々について解説。山の鼻近く水芭蕉のある湿地に「小熊がいるので興奮させないようそのまま通過してください。」との注意があった。熊は水芭蕉の実が大好物らしい。

講演内容

国立公園とは その管理の仕組み 施設 等

尾瀬では 檜枝岐地区 片品地区とも

自然保護官 1 名、アクティブレンジャー 1 名の 2 名で

尾瀬の調査・保護活動・利用設備の整理等を担当。シカなどによる食害からの保護、尾瀬以外からの外来種の駆除、植生の回復などである。

豪雪地帯である尾瀬はシカの影響を受けずに成立した生態系だったが 90 年代半ばから雪が少なくなる春には主に日光方面からの移動と思われるシカの生息が確認され、10 年程前から急増しミツガシワ、ニッコウキスゲなど多種類の食害が目立つ。夜間尾瀬の木道から定点観測を設定し、季節による変化、経年変化の観察を行っている。

2009 年に決定した「尾瀬国立公園シカ管理方針」では、「尾瀬からシカを排除することを最終的な目標」として捕獲したシカに GPS をつけ、越冬地へ

の行動経路などの調査を行い捕獲適地、時期などを把握し、地元の自治体と協力し2015年までに年平均約190頭を捕獲してきたが生息数の増加と植生の攪乱はとまっていない。2016年夏現在、尾瀬のシカの推定生息数は約1500頭、捕獲目標は、2023年までに半減です。その数約750頭。今年度は指定管理鳥獣捕獲事業交付金を活用し春のみで102頭を捕獲したが被害は続いている。重点地域を設定し柵で囲むことも検討している。意見交換は講演内容のシカについて行われた。

2日目

尾瀬ヶ原を牛首まで往復し現地調査。木道脇のニッコウキスゲの食べられた花の茎が多い。10年ほど前、尾瀬ヶ原は一面のキスゲの花で覆われていた野を思い出すが、今年7月中旬に来たときには、ほとんどなくなってしまった。芽の出る初春にシカに食べられたと思われる。

林道上の定点観測点地点標識



周囲の林から尾瀬ヶ原への鹿道



シカよるミツガシワの食跡



熊による水芭蕉の種の食跡



シカの他に尾瀬ヶ原で目立っ
たのは熊の跡だった。尾瀬ヶ原を
流れる川の近くでは大きな水芭
蕉が多く、その花の後の種はほと
んど食い荒らされ水芭蕉の大き
な葉も踏み倒されているものが
おおい。また熊の通った後は、鹿
跡とは違い大きくなぎ倒されて
いた。牛首からの帰り、100m ほど
離れた木に子熊が 2 頭登って
いるのがみられた。

熊の通った跡



木道の近くに浅い水たまりが目立つ。これは熊やシカのヌタ場はだという。一見池塘とよく似ているが非常に浅く水たまりの縁が池塘のようにモウセンゴケがほとんどない。またミツガシワの根まで食べるなど生態系に大きな影響があるということです。

